

# アートと地域活性化～伊香保アートプロジェクト2011

## The Application of Space-Design Works for local Revitalization

下山 肇

### 1. はじめに

本研究は、地域活性化の一手段として、知性と感性の融合を目指す空間造形シリーズ、「コトバノハシラ」を活用した事例の報告である。

### 2. 背景

#### 2-1. 対象地域について－伊香保温泉

伊香保温泉は榛名山の中腹、標高約700m付近に位置し、現在は群馬県渋川市に属する。当地に伝わる湯縁起では垂仁天皇（すいにんてんのう）の時代に開かれたという説と、天平時代の僧、行基によって発見されたという説が伝えられ古くからある温泉である。

中心地は石段街とも呼ばれ、400年以上の歴史を刻んだ石段をはさんで両側に旅館やホテル、みやげ物屋が並んでいる。この町並みは、天正4年（1576）代々伊香保に在し、上杉氏やがては武田氏の配下にあった木暮下総守祐利らが、傾斜地を活用して温泉街を造成したのが始まりとされている。（Fig.1）

しかし、このような歴史や地勢を持っていても、温泉利用客は年々減少してきている。第30回地方自治研究全国集会「自治研報告書集」のレポートによれば、

「本県は草津、伊香保、水上、四万等全国的に知られている温泉地があり、全国有数の「湯の国」として評価されてきました。しかしながら、温泉宿泊者数はピークである平成3年度の830万人から平成14年度には630万人に減少しました。

全国順位も昭和時代は静岡、北海道に次ぐ第3位であったが、平成に入り、長野、栃木に越され、平成12年度には大分にも越されて6位となっています。バブル崩壊後も全国レベルでの温泉宿泊利用者は決して減少しておらず、1億3,500万人～1億4,000万人程度で推移しており、一過性のブームでなく、広く国民に定着し利用されています。大きく減少した県は、群馬、静岡、栃木で、逆に北海道、長野では増加しています。まさに「湯の国ぐんまは風前の灯火」といえる危機的な状態になっています。」<sup>(1)</sup>

と述べられ、このまま放っておけばどんどん衰退してしまうかもしれない状況にあることがわかる。

(1) 群馬県本部／群馬県職労 高橋 政夫「自治研報告書集」第30回地方自治研究全国集会 2004年

## 2-2. 地域活性化とアート

「地域活性」は、地域再生、地方振興、まちづくり、むらおこしなどとも言われ、「地域再生法」によれば、

「(前略) 近年における急速な少子高齢化の進展、産業構造の変化等の社会経済情勢の変化に対応して、地方公共団体が行う自主的かつ自立的な取組による地域経済の活性化、地域における雇用機会の創出その他の地域の活力の再生(以下「地域再生」という。)を総合的かつ効果的に推進(中略)、もって個性豊かで活力に満ちた地域社会を実現し、国民経済の健全な発展及び国民生活の向上に寄与すること(後略)」<sup>(2)</sup>

と述べられ、内閣府や首相官邸、国土交通省などの各機関から様々な政令、補助金がだされているように、現代の日本における重要なテーマの一つである。

このテーマにアートを手段にして取り組んでいる事例としてよく取り上げられる、「ベネッセアートサイト直島」や「大地の芸術祭 越後妻有アートトリエンナーレ」は、メディアの露出も多く、取り立ててアートに関心が無い人でも、「ちょっと行ってみようか」という思いを起こさせる魅力を放っている。このほかにも、さまざまな地方でアートを手段に地域活性化をはかろうという取り組みがなされ、本研究もそうした流れの中、実現したものである。

(2)「地域再生法」第一章 総則 2005年公布

## 3. プロジェクトの概要

2011年2月に群馬県伊香保温泉旅館組合青年部有志から、「アートによる地域活性化」という依頼を受けた筆者を含む、群馬県立女子大学文学部美学美術史学科実技教員三名が、コラボレーション企画として「伊香保アートプロジェクト」を発案した。先の伊香保温泉旅館組合青年部と伊香保の石段街振興会、伊香保商工会青年部が中心となり「伊香保アートプロジェクト実行委員会」が発足し、「あかりの宿おかべ」「お好み焼き山路」「竹内製菓」「千明仁泉亭」「塚越屋七兵衛」「ホテル木暮」「水沢うどん大澤屋」「横手館」の8つの旅館、飲食店から次代を担う世代の担当者たちが名乗りを上げ、コラボレーションが実現した。

具体的な企画として、伊香保の良さを再発見する大学生による「伊香保のお宝写真展」と、本研究のテーマである、旅館、飲食店との作品制作によるコラボレーション教員作品展「湯けむりとアート展」の二つが実施された。

- ・名称：湯けむりとアート展
- ・期間：2011年4月30日(土)～6月28日(火)53日間
- ・場所：伊香保石段ギャラリー、伊香保温泉街数カ所(野外を含む)  
群馬県渋川市伊香保町伊香保20
- ・時間：11時30分～14時30分(GW以外、毎週水休)
- ・主催：伊香保アートプロジェクト実行委員会

- ・ 共 催：群馬県立女子大学、石段街振興会、伊香保商工会青年部、伊香保温泉旅館組合青年部
- ・ 協 力：あかりの宿おかべ、お好み焼き山路、ガイドの会遊友、竹内製菓、千明仁泉亭、塚越屋七兵衛、ホテル木暮、松浦一幸（書）、水沢うどん大澤屋、横手館、喫茶 SARA、(有)山崎製作所、宇田恵（順不同・敬称略）
- ・ 来場者数：約1500人（伊香保アートプロジェクト実行委員会調べ）

#### 4. 作品について

筆者は「ホテル木暮」「千明仁泉亭」「塚越屋七兵衛」の三旅館を担当し、この地ならではの作品として「コトバノハシラ」シリーズの展開、「メブキノコトバ」を新たにデザイン制作し、他の二教員の作品とともに「湯けむりとアート展」へ出展した。

##### 4-1. 「コトバノハシラ」シリーズについて

###### 4-1-1. コンセプト

表面に見える形とその奥に隠れた法則の間を行き来する、謎解きの表現によって、人間の知性を刺激し、人間が本来持ちうる「感性」と「知性」の融合を目的とした一連の空間作品である。

知性の象徴として、日常見慣れた記号「カタカナ」をテーマに、文字と文字の「隙間」を、単純な図像学的な技法「図と地」の反転によって、形体としてとらえなおすことで形体化していくシステムである。(Fig.2) カタカナは日本語において、主に外来語を表記するのに用いられ、異なる文化の橋渡しとなる記号でもある。

###### 4-1-2. 三段階のインターフェイス

作品を介し会話のきっかけを生み出すように、以下三段階のインターフェイスから計画する。

- 第一段階 形体の認識1（一見、無秩序な形体、非日常としての存在感）  
「あれ？なんだろう」
- 第二段階 形体の認識2（既視感のある形体「カタカナ」の発見）  
「文字が読めるぞ！」
- 第三段階 意味の認識（話題のきっかけが生まれ、また価値の発見がある）  
「意味は何だろう？」

###### 4-1-3. 日本的な価値の発信

システムとしてのデザインという位置づけから、形体化される言葉は自由であるが、「日本的なこと」に対する価値や、そのすばらしさを再発見するきっかけともなるように、モチーフには、「英語に訳せない日本語」や「地域性」、または「詩」、「文学」、「回文」などを用い、鑑賞者の興味を誘発する。

見て触れる固まりになった「隙間」と、空間になった「カタカナ」との関係は、パズル

のピースがぴったりはまるような、秩序があらわれる時のワクワクする感じをあたえ、感性を刺激する知的な遊具となる。

## 4-2. 今回の作品「メブキノコトバ」について (Fig.3)

### 4-2-1. テーマ

筆者担当である各旅館とのコラボレーションから、担当者とのコミュニケーションを通して、旅館内に掛かる為書きや、パンフレットなど、お客さまに対する気持ちや理念をあらわす「言葉」を取材し、それぞれの特色ある思いをテーマとした。

「ホテル木暮」 = 「子の湯、千両 (ネノユ センリョウ)」 (Fig.4)

(源泉番を十二支で表した当時の湯名より)

「千明仁泉亭」 = 「夜毎に集う、宴の席 (ヨゴトニツドウ ウタゲノセキ)」 (Fig.5)

(パンフレットの中から見つけたイメージコピーより)

「塚越屋七兵衛」 = 「人生の旅人に幸あれ (ジンセイノ タビビトニ サチアレ)」 (Fig.6)

(ロビーにも飾られている往時の利用客、武者小路実篤氏の書より)

### 4-2-2. 形体のイメージ

旅館の古いパンフレットや建築の意匠にもよく取り上げられている、ワラビやゼンマイの図を元に、新しい伊香保温泉がここから発展、成長していくという思いを込め、植物の「芽吹き」を形体や色彩のイメージとして取り入れた。(Fig.7)

また、三つのオブジェの調和を保ちながら差別化するため、ビジュアル的なアイコンとして各オブジェに、シンボルアニマルをモチーフにした図をデザインした。各動物の具体的なモチーフは、伊香保温泉独特の風習である、源泉の管理番を表す十二支や、各旅館の好み、伊香保の400年にもわたる古い歴史や、日本的なイメージなどを加味し、次のように選んだ。

「ホテル木暮」 = ねずみ (源泉番一番「子」、パンフレットのイラストより) (Fig.8)

「千明仁泉亭」 = 鶴 (伊藤若冲、「鶴図屏風」より) (Fig.9)

「塚越屋七兵衛」 = ふくろう (「鳥獣戯画」より)。(Fig.10)

### 4-2-3. 作品の仕様

- ・サイズ：H 1800 × W 600 × D 600(mm) × 3器
- ・素材：スチール 厚6mm、焼付け塗装仕上、LED照明4W × 2灯 (1基)
- ・製作：有限会社 山崎製作所

## 5. 「湯けむりとアート展」開催と成果

### 5-1. 会場作り

手探り状態の初期打ち合わせでは半信半疑であった各担当者たちも、ビジュアルマップが提示されてからはビジョンが明確になり盛り上がってきた。(Fig.11) プロジェクトは

そのムードを保ちながらかなりのスピードで進んでいった。しかしこの地域には本企画にふさわしい作品展示の場所が無かったため、展覧会を行うにあたり新たな場所作りが必要になった。検討の結果、伊香保の象徴と言いき石段に隣接する場所で喫茶業を営む「SARA」の2F空きスペースを「伊香保石段ギャラリー」と名づけ会場とした。(Fig.12)

忙しい仕事の合間を縫って会場作りにいそしむ実行委員たちは、冗談をいいながら楽しんで壁のペンキを塗ったり、掃除をしたりしていた。その姿は自分たちの手で企画を成功させたいという強い意志を感じた。(Fig.13)

展覧会が始まってからの会場案内係も、同じように交代制で行われた。普段はなかなか疎遠なご近所の人たちもこの姿を見て様々な差し入れを持ってきてくれ、企画成功への期待を感じさせられた。(Fig.14)

## 5-2. 各施設と作品

4. にて示した作品のコンセプトは作品プレゼンテーションの段階では、なかなか伝わらなかった。しかしテーマである言葉を探したり、シンボルアニマルの形体を吟味するようになると「自分たちの作品」という意識が生まれ期待感は膨らんできた。デザインが決定し、完成した形を目の当たりにすると、理屈よりも感性を刺激する知的な遊具としてのアートの存在が理解された。これは来場者への作品説明の仕方、「読めますか？」という声の掛け方からも感じられた。(Fig.15)

## 5-3. 来場者の反応

来場者は会期53日の間に約1500名が訪れた。反応もおおむね良好で、アンケートからは「面白い取り組みだ」「もっとやってほしい」「こういう企画が好きだ」という意見が多く見られた。

鋭い指摘だったのは「作家の教員は群馬出身ではないのか？」というもので、地域活性と当事者の関係についての新たなテーマが投げかけられた。

また地方紙である上毛新聞からも取材を受け、本プロジェクトの期待度と注目度が伺い知れた。(Fig.16)

## 5-4. 今後の展望

伊香保のような小規模な町でもすべての人々が本企画に賛同している訳ではないが、少なくとも関わった担当者や各施設、期待を込めて応援してくれた町の人たちの絆は深まったのではないかと思う。

また、作品の製作を地元の業者をお願いすることで、地域とのつながりを強化するとともに、次世代のものづくり環境を作っていくきっかけともなった。

一通りの展覧会を終え、実行委員のひとりと言う、「今回アートは、今まで個々に活動



していた者たちをつなげる『接着剤』として機能した。それぞれの作品に関わったり、展覧会場に足を運ぶことによって強い親密感が生まれ、別々ではなく『みんなでお客さまをもてなすんだ』という一体感を強く持てるようになった。今後もさらにこの接着剤を大きく、深く活用することで、観光業以外の人たちや周辺の地域ともつながっていきたいと思う。」

## 6. まとめ

最近、アートを地域活性化に使おうという企画をよく見かける。アートを魔法のようにとらえ、その言葉を使えば即、集客につながったり、意識改革ができると思っているようにも見受けられる。しかし当然そんなことはなく、関わったものみんなが思いを共有し、また未来につなげて活動を継続していくことが必要である。

会期後、思いを新たにした各施設は「メブキノコトバ」を引き取り、本作品を活性化の象徴として思い思いの場所に展示し、日々、施設内の環境改善に努めている。(Fig.17) (Fig.18) (Fig.19)

また後日、作品をモチーフとしたアートワークショップも行い、さらなる広がりを見せた。(Fig.20)

製作者は、一見、業務外に見える本作品制作と関連の活動が注目され、高崎市の工業課から地元の企業向けの活動報告を依頼されたとのことである。

このようにこれら空間作品を含むアートは、地域活性化のきっかけとして有効に機能しているのではないかということを感じた。

なお本プロジェクトは、既に行った二つの展覧会を発展させた企画「手ぬぐいアート展」にむけて現在も継続中である。

### [参考資料・文献・URL]

「地域再生法」

<http://www.kantei.go.jp/jp/singi/tiikisaisei/osirase/050204/houritu.pdf>

「地域振興～活力と魅力のある地域づくり」国土交通省 HP

<http://www.mlit.go.jp/crd/chisei/index.html>

「地域活性化策」首相官邸 HP

<http://www.kantei.go.jp/jp/tiiki/index.html>

「地域活性化総合サイト」内閣府 HP

<http://www.chiiki-info.go.jp/>

「地域再生の為に～地域が主役」内閣官房 地域活性化総合事務局 内閣府 地域再生事業推進室 2008年

<http://www.kantei.go.jp/jp/singi/tiikisaisei/panfu/h20/p1-6.pdf>

「地域活性化学会とは」地域活性化学会 HP

<http://www.hosei-web.jp/chiiki/index.html>

ベネッセアートサイト直島 HP

<http://www.benesse-artsite.jp/>

越後妻有 大地の芸術祭の里 HP

<http://www.echigo-tsumari.jp/>

「伊香保づくし」伊香保温泉旅館協同組合 HP

<http://www.hotels-ikaho.or.jp/>

「第30回地方自治研究全国集会 自治研報告書集」全日本自治団体労働組合 2004年

[http://www.jichiro.gr.jp/jichiken/report/rep\\_gunma30/start.htm](http://www.jichiro.gr.jp/jichiken/report/rep_gunma30/start.htm)

小松茂美編「日本絵巻大成 6 鳥獣人物戯画」中央公論社 1977年

「特別展覧会没後200年若冲展カタログ」京都国立博物館 2000年



Fig.18 メブキノコトバ「ヨゴトニツドウ ウタゲノセキ」千明仁泉亭





Fig.1 伊香保温泉石段街

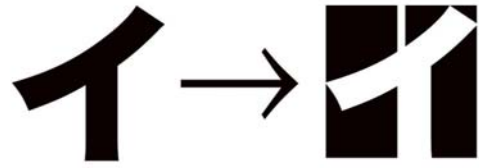


Fig.2 図と地・形体化



Fig.3 「メブキノコトバ」



Fig.4 ホテル木暮パンフレット



Fig.5 千明仁泉亭パンフレット



Fig.6 塚越屋七兵衛「為書」



Fig.7 「ゼンマイ」古パンフレット



Fig.8 「子」イラスト



Fig.9 「鶴図押絵貼屏風」  
(部分複写)



Fig.10 「鳥獸戯画」(部分複写)



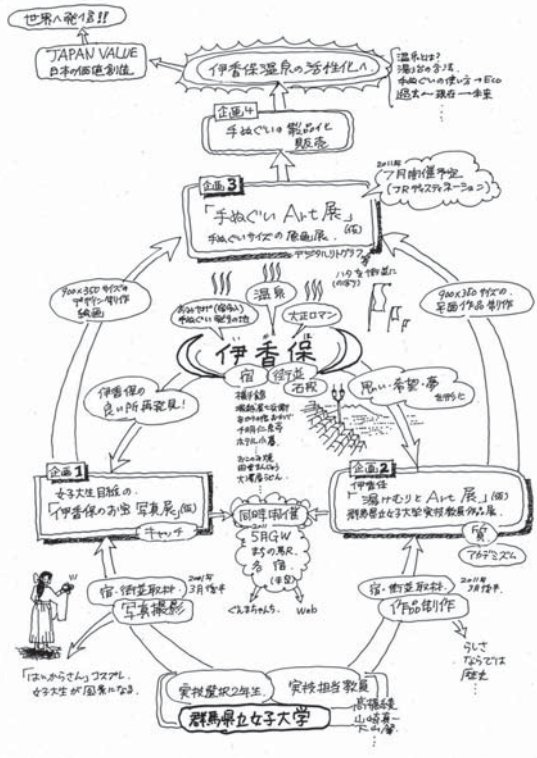


Fig.11 プロジェクトビジュアルマップ



Fig.14 案内係とご近所さん



Fig.15 会場風景



Fig.12 伊香保石段ギャラリー



Fig.13 会場作り

県立女子大生 企画展

### 石段にアートや写真

#### 温泉街の魅力表現

渋川・伊香保

県立女子大伊香保温泉の専攻科がコラボレーションした「伊香保アートプロジェクト」の企画展が6月28日まで、渋川市伊香保町の同温泉街で開催されている。「湯けむりとアート展」と「伊香保のお土産展」という二つの企画で、同大学美術学科の教員と学生が伊香保の魅力表現、温泉街を作品で展示している。

アート展では、同学科の教員も入温泉宿「湯宿」の「湯宿」をテーマにしたミニエッセイや絵画といった自作作品を「伊香保石段ギャラリー」や店舗など4カ所に展示した。

お土産展は、女子大生が自分たちが目撃した伊香保のアートプロジェクトの魅力を表現した作品を展示している。

アート展では、同学科の教員も入温泉宿「湯宿」の「湯宿」をテーマにしたミニエッセイや絵画といった自作作品を「伊香保石段ギャラリー」や店舗など4カ所に展示した。

お土産展は、女子大生が自分たちが目撃した伊香保のアートプロジェクトの魅力を表現した作品を展示している。

同組合青年部の塚越正徳さんは「自分から多くの文藝客に愛されたい伊香保の芸術性を多くの人に感じてもらいたい」と話している。

同プロジェクトに参加した同温泉旅館協会の小倉さんからは「お土産展は、お土産の魅力を文字で表現し、石段の文字の魅力を多くの人に伝えてほしい」と話している。

Fig.16 2011年5月4日上毛新聞



Fig.17 メブキノコトバ「ネノユ センリョウ」ホテル木暮



Fig.19 メブキノコトバ「ジンセイノ タビトニ サチアレ」塚越屋七兵衛



Fig.20 ワークショップ風景